

1 令和7年産花きの作付（収穫）面積及び出荷量の動向

作付（収穫）面積は、切り花類が1万1,660ha（対前年産比94%）、球根類が211ha（同103%）、鉢ものの類が1,314ha（同96%）、花壇用苗ものの類が1,136ha（同95%）となった。

出荷量は、切り花類が26億7,700万本（同94%）、球根類が5,070万球（同87%）、鉢ものの類が1億5,500万鉢（同95%）、花壇用苗ものの類が4億5,210万本（同91%）となった。

表1 令和7年産花きの類別作付（収穫）面積及び出荷量（全国）

類別	作付（収穫） 面積	出荷量	対前年産比	
			作付（収穫） 面積	出荷量
	ha	万本（球・鉢）	%	%
切り花類	11,660	267,700	94	94
球根類	211	5,070	103	87
鉢ものの類	1,314	15,500	96	95
花壇用苗ものの類	1,136	45,210	95	91

注：1 球根類及び鉢ものの類は、収穫面積である。
2 出荷量の単位は、切り花類及び花壇用苗ものの類が万本、球根類が万球、鉢ものの類が万鉢である。

2 類別・品目別の作付（収穫）面積及び出荷量の動向

(1) 切り花類

作付面積は1万1,660haで、前年産に比べ700ha（6%）減少した。これは、生産者の高齢化等の労力事情により作付中止や規模縮小があったこと等による。

出荷量は26億7,700万本で、前年産に比べ1億6,900万本（6%）減少した。これは、作付面積の減少に加え、夏期の高温の影響により生育不良がみられたこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が19%で最も高く、次いで沖縄県が7%、静岡県が6%、福岡県及び長野県がそれぞれ5%となっている。

品目別出荷量割合は、きくが39%で最も高く、次いで切り枝が7%、カーネーション及びばらがそれぞれ6%、ガーベラが4%となっている。

図1 切り花類の作付面積及び出荷量の推移

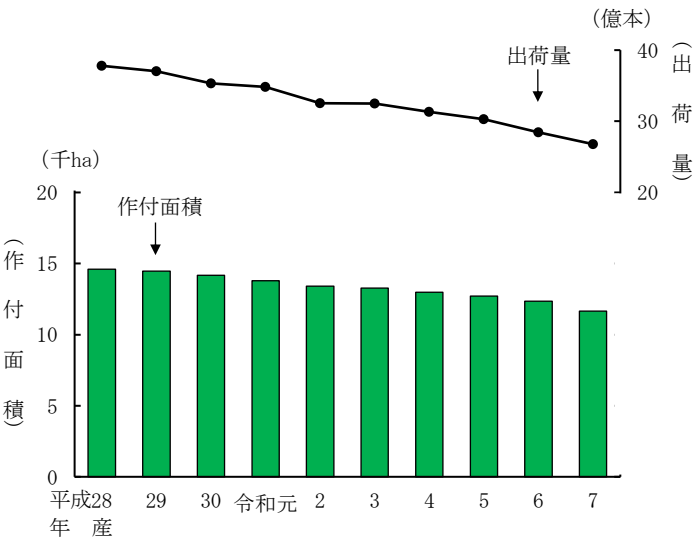


図2 切り花類の都道府県別出荷量割合

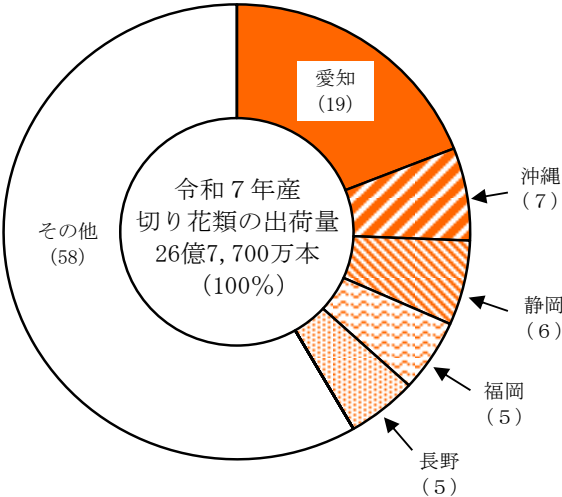
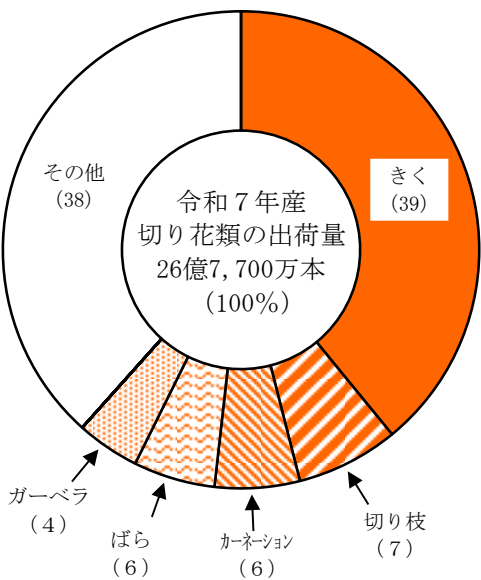


図3 切り花類の品目別出荷量割合



注：割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある（以下図44まで同じ。）。

表2 令和7年産切り花類の作付面積及び出荷量（全国）

類・品目	作付面積	出荷量	対前年産比	
			作付面積	出荷量
	ha	万本	%	%
切り花類	11,660	267,700	94	94
うち きく	3,520	104,600	92	94
うち 輪ぎく	1,816	55,360	nc	nc
スプレイぎく	657	20,010	nc	nc
小ぎく	1,046	29,230	nc	nc
カーネーション	197	15,430	92	90
ばら	229	14,850	90	87
りんどう	357	6,420	93	94
宿根かすみそう	197	4,770	99	100
スターチス	164	10,090	100	90
ガーベラ	67	11,470	95	99
トルコギキョウ	359	7,480	94	96
ゆり	542	8,950	92	91
アルストロメリア	79	5,360	98	100
切り葉	459	6,800	85	92
切り枝	3,395	18,600	97	96

注：切り花類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。

ア きく

作付面積は3,520haで、前年産に比べ301ha（8％）減少した。これは、生産者の高齢化等の労力事情による作付中止や規模縮小に加え、他作物への転換があったこと等による。

出荷量は10億4,600万本で、前年産に比べ6,500万本（6％）減少した。これは、作付面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が37％で最も高く、次いで沖縄県が15％、福岡県が6％、鹿児島県が5％、長崎県が4％となっており、この5県で全国の約7割を占めている。

図4 きくの作付面積及び出荷量の推移

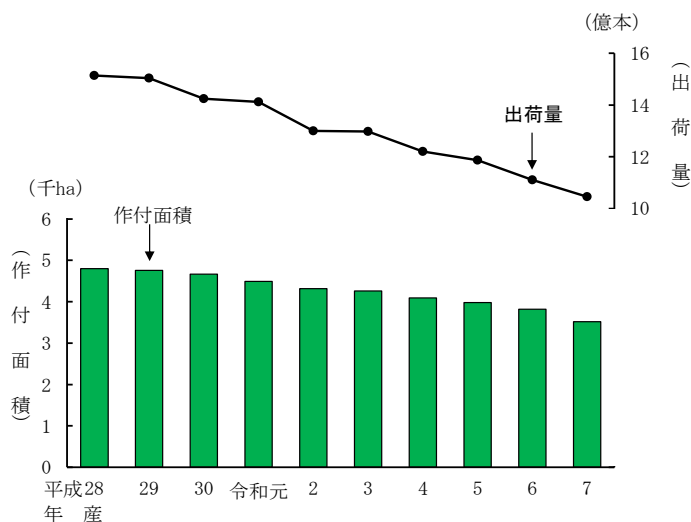
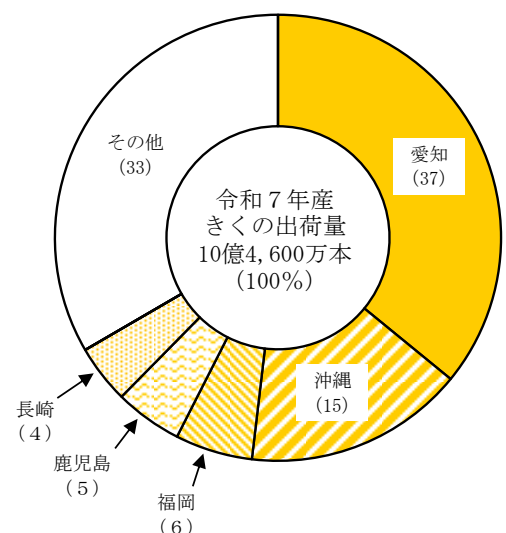


図5 きくの都道府県別出荷量割合



イ カーネーション

作付面積は197haで、前年産に比べ18ha（8％）減少した。これは、生産者の高齢化等の労力事情により作付中止や規模縮小があったこと等による。

出荷量は1億5,430万本で、前年産に比べ1,650万本（10％）減少した。これは、作付面積の減少に加え、夏期の高温の影響により生育不良がみられたこと等による。

都道府県別出荷量割合は、長野県が21％で最も高く、次いで愛知県が18％、北海道、千葉県及び兵庫県がいずれも9％となっており、この5道県で全国の約7割を占めている。

図6 カーネーションの作付面積及び出荷量の推移

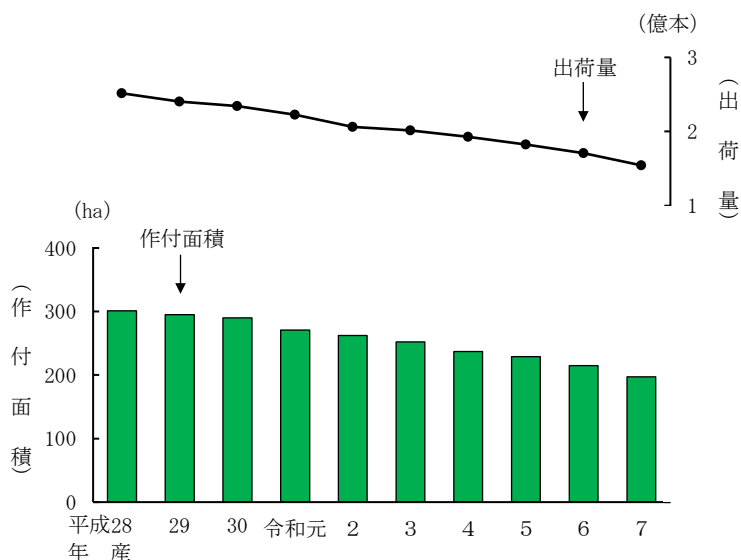
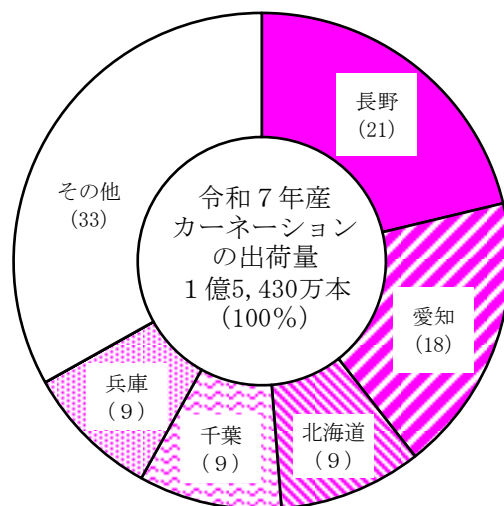


図7 カーネーションの都道府県別出荷量割合



ウ ばら

作付面積は229haで、前年産に比べ25ha（10％）減少した。これは、生産者の高齢化等の労力事情により作付中止や規模縮小があったこと等による。

出荷量は1億4,850万本で、前年産に比べ2,280万本（13％）減少した。これは、作付面積の減少に加え、夏期の高温の影響により生育不良がみられたこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が18％で最も高く、次いで静岡県が10％、山形県が8％、福岡県が7％、群馬県が6％となっており、この5県で全国の約5割を占めている。

図8 ばらの作付面積及び出荷量の推移

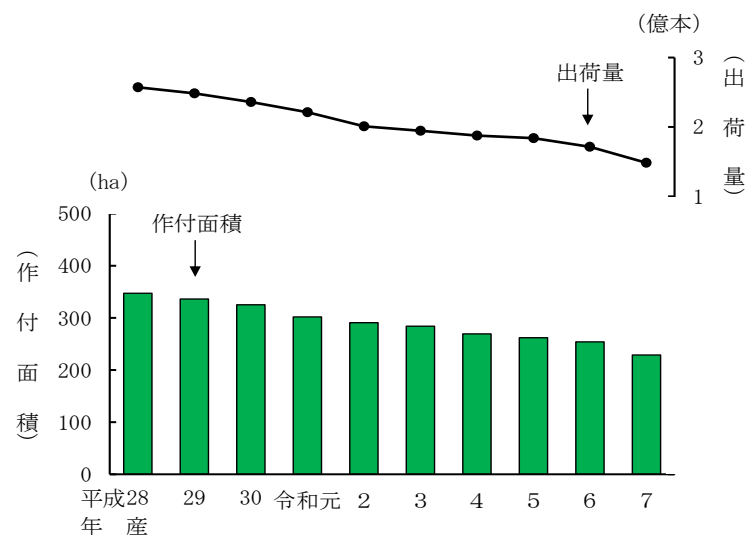
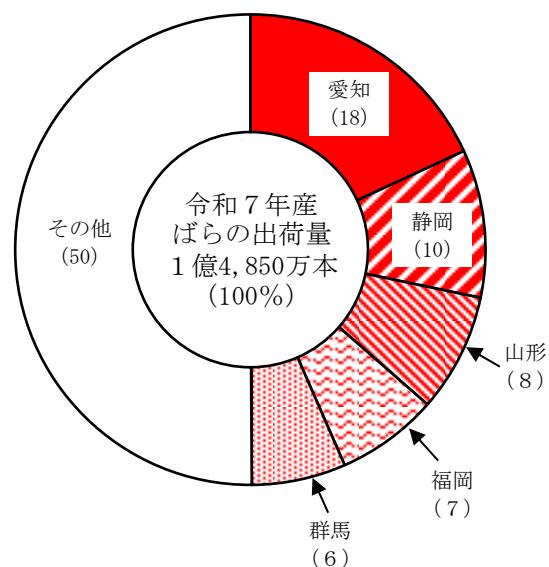


図9 ばらの都道府県別出荷量割合



エ リンどう

作付面積は357haで、前年産に比べ26ha（7％）減少した。これは、生産者の高齢化等の労力事情により作付中止や規模縮小があったこと等による。

出荷量は6,420万本で、前年産に比べ410万本（6％）減少した。これは、作付面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、岩手県が62%で最も高く、次いで山形県が11%、秋田県が10%となっており、この3県で全国の約8割を占めている。

図 10 リンどうの作付面積及び出荷量の推移

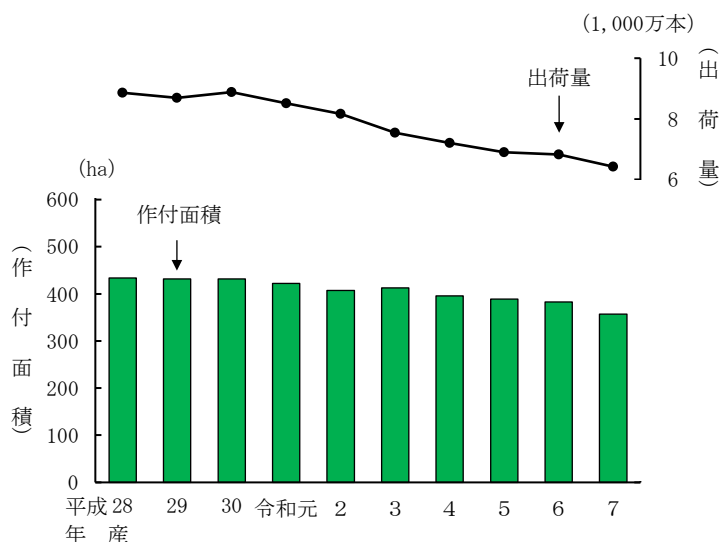
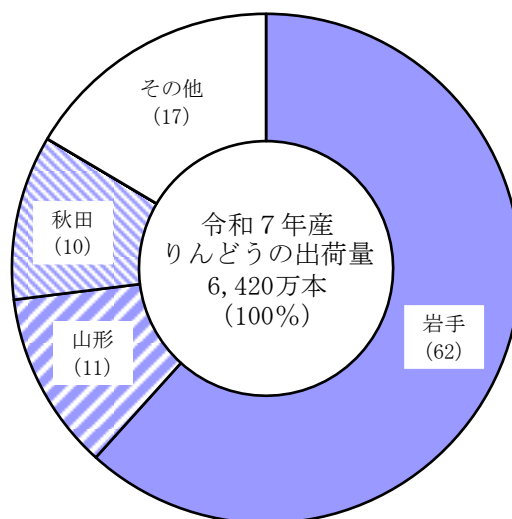


図 11 リンどうの都道府県別出荷量割合



オ 宿根かすみそう

作付面積は197haで、前年産に比べ1ha（1％）減少した。

出荷量は4,770万本で、前年産並みとなった。

都道府県別出荷量割合は、熊本県が38%で最も高く、次いで和歌山県が22%、福島県が19%、北海道が5%となっており、この4道県で全国の約8割を占めている。

図 12 宿根かすみそうの作付面積及び出荷量の推移

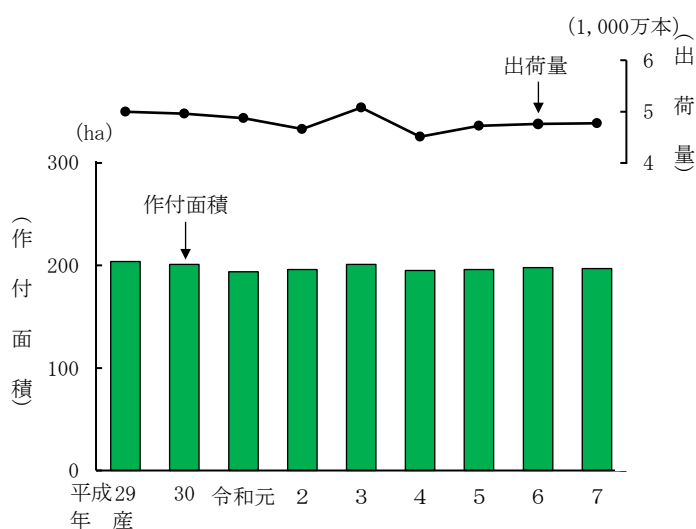
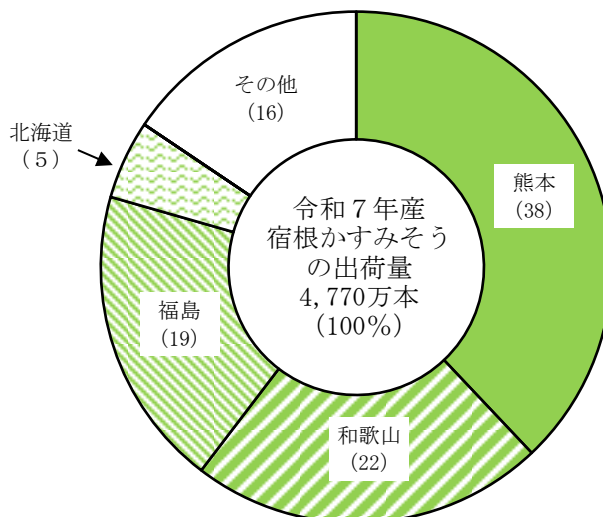


図 13 宿根かすみそうの都道府県別出荷量割合



カ スターチス

作付面積は164haで、前年産並みとなった。

出荷量は1億90万本で、前年産に比べ1,130万本（10%）減少した。これは、夏期の高温の影響により生育不良がみられたこと等による。

都道府県別出荷量割合は、和歌山県が54%で最も高く、次いで北海道が25%、長野県が8%となっており、この3道県で全国の約9割を占めている。

図 14 スターチスの作付面積及び出荷量の推移

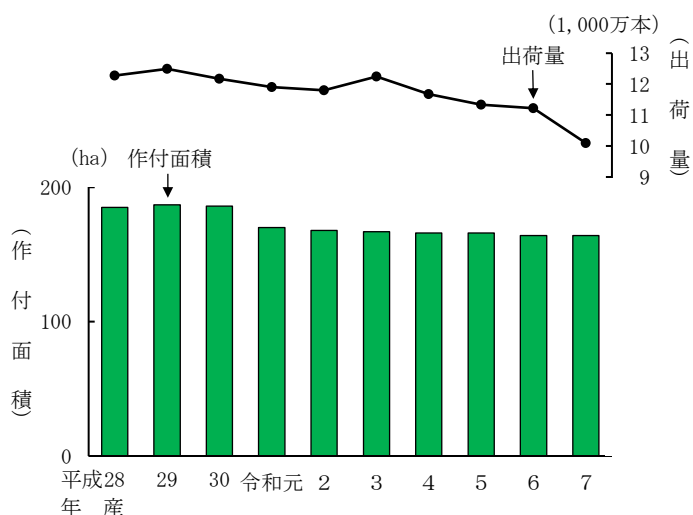
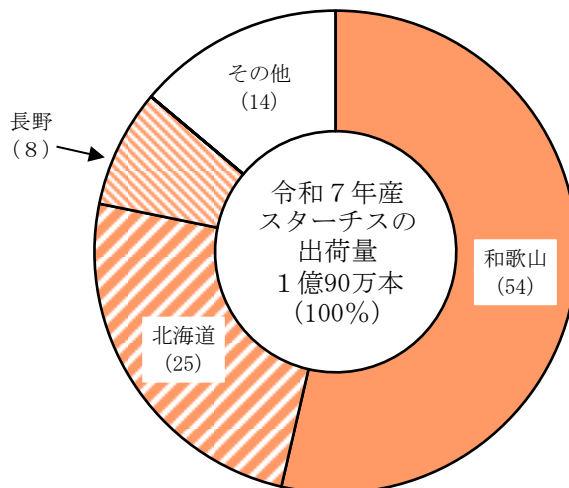


図 15 スターチスの都道府県別出荷量割合



キ ガーベラ

作付面積は67haで、前年産に比べ3ha（5%）減少した。

出荷量は1億1,470万本で、前年産に比べ140万本（1%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、静岡県が42%で最も高く、次いで福岡県が16%、和歌山県が10%、愛知県及び長崎県がそれぞれ6%となっており、この5県で全国の約8割を占めている。

図 16 ガーベラの作付面積及び出荷量の推移

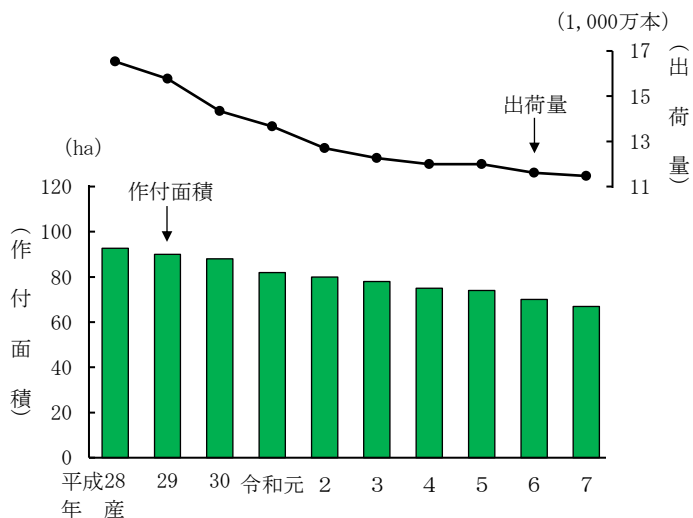
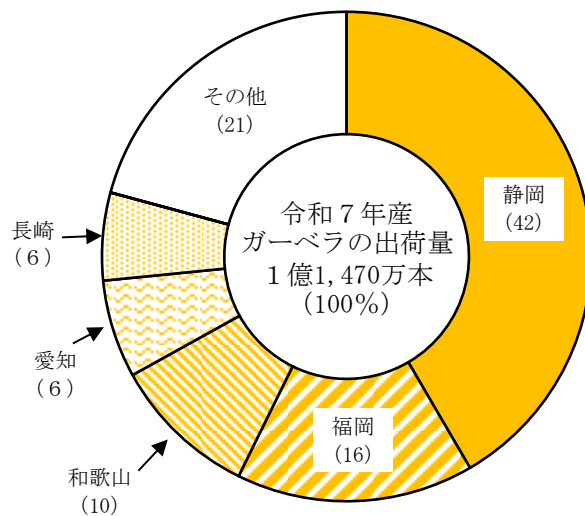


図 17 ガーベラの都道府県別出荷量割合



ク トルコギキョウ

作付面積は359haで、前年産に比べ21ha（6％）減少した。これは、生産者の高齢化等の労力事情により作付中止や規模縮小があったこと等による。

出荷量は7,480万本で、前年産に比べ350万本（4％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、長野県が14％で最も高く、次いで熊本県が11％、福岡県が10％、高知県及び静岡県がそれぞれ5％となっている。

図 18 トルコギキョウの作付面積及び出荷量の推移

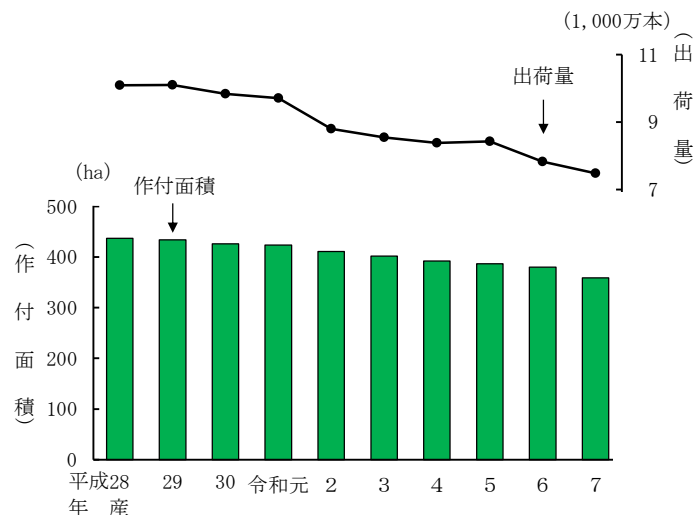
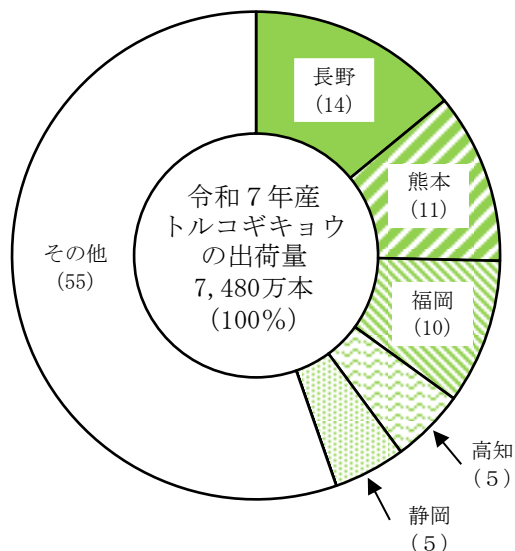


図 19 トルコギキョウの都道府県別出荷量割合



ケ ゆり

作付面積は542haで、前年産に比べ44ha（8％）減少した。これは、生産者の高齢化等の労力事情や球根等の値上がりに伴う経費高騰により作付中止や規模縮小があったこと等による。

出荷量は8,950万本で、前年産に比べ850万本（9％）減少した。これは、作付面積の減少に加え、夏期の高温の影響により生育不良がみられたこと等による。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が21％で最も高く、次いで高知県が13％、新潟県が10％、宮崎県及び千葉県がそれぞれ6％となっており、この5県で全国の約6割を占めている。

図 20 ゆりの作付面積及び出荷量の推移

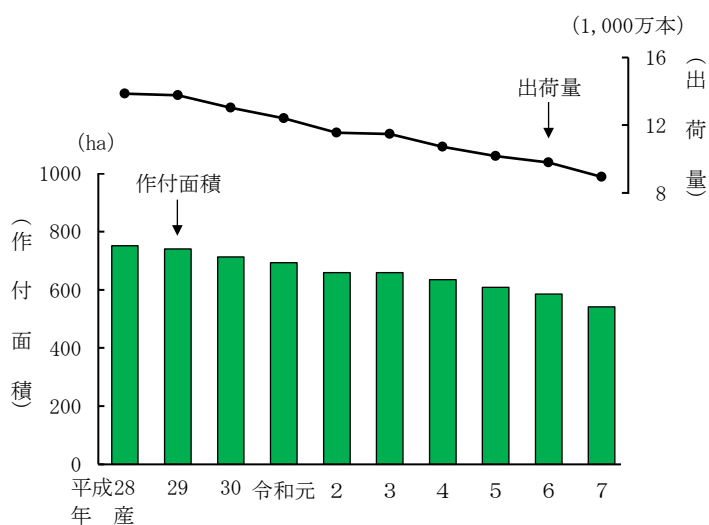
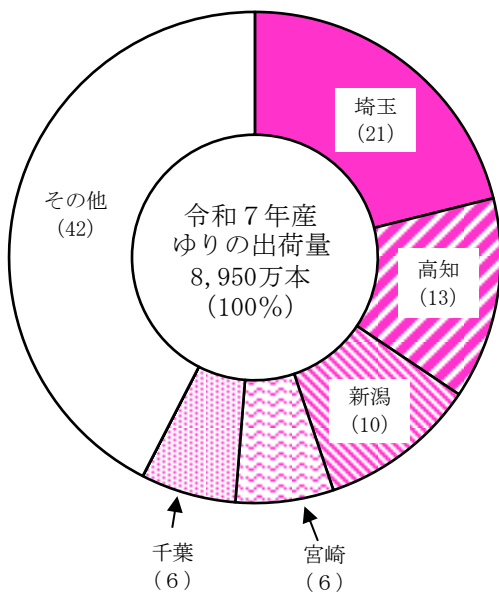


図 21 ゆりの都道府県別出荷量割合



コ アルストロメリア

作付面積は79haで、前年産に比べ2ha（2％）減少した。

出荷量は5,360万本で、前年産並みとなった。

都道府県別出荷量割合は、長野県が43％で最も高く、次いで愛知県が22％、山形県が10％、北海道が8％となっており、この4道県で全国の約8割を占めている。

図 22 アルストロメリアの作付面積及び出荷量の推移

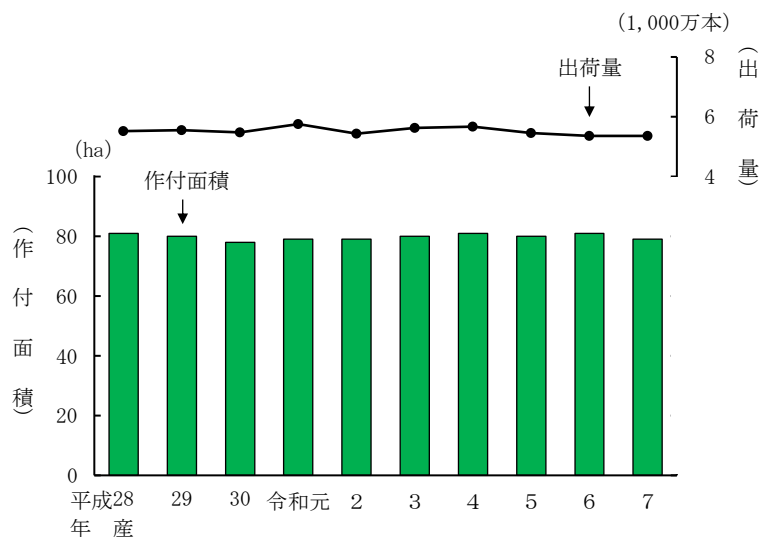
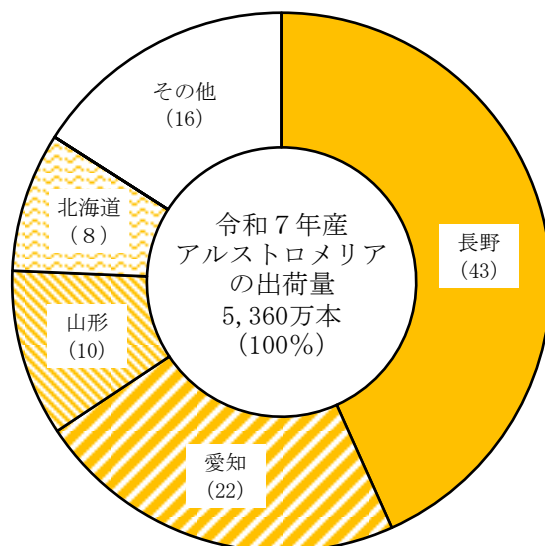


図 23 アルストロメリアの都道府県別出荷量割合



サ 切り葉

作付面積は459haで、前年産に比べ83ha（15％）減少した。これは、生産者の高齢化等の労力事情による作付中止や規模縮小に加え、台風や豪雨により施設被害があったこと等による。

出荷量は6,800万本で、前年産に比べ600万本（8％）減少した。これは、作付面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、東京都が28％で最も高く、次いで沖縄県が21％、鹿児島県が16％、静岡県が8％、千葉県が5％となっており、この5都県で全国の約8割を占めている。

図 24 切り葉の作付面積及び出荷量の推移

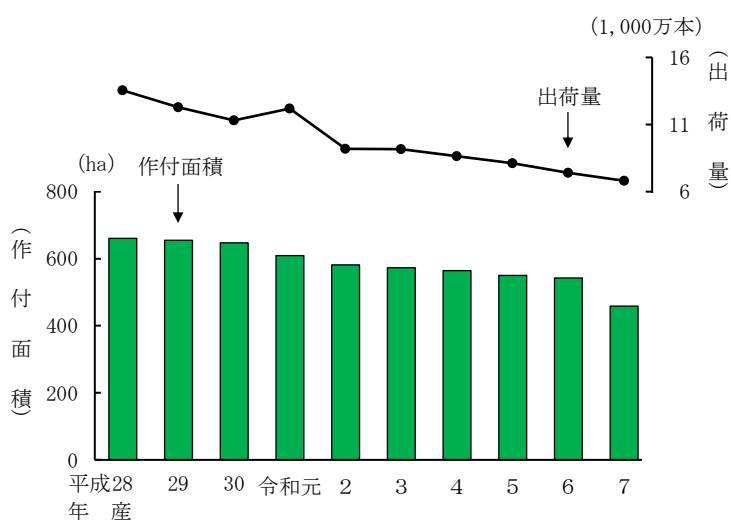
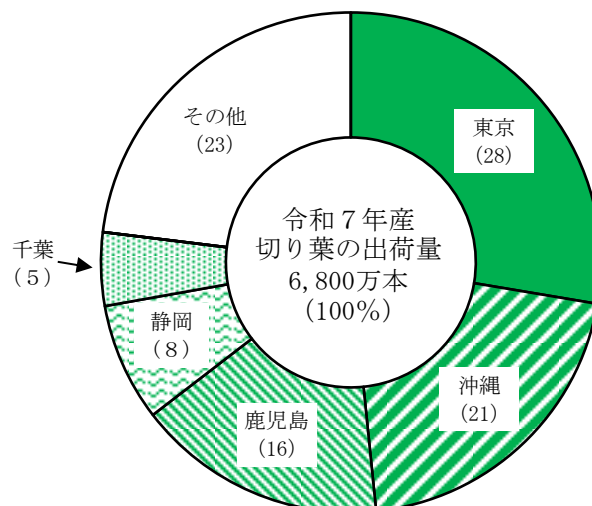


図 25 切り葉の都道府県別出荷量割合



シ 切り枝

作付面積は3,395haで、前年産に比べ105ha（3％）減少した。

出荷量は1億8,600万本で、前年産に比べ860万本（4％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、静岡県及び茨城県がそれぞれ16%で最も高く、次いで愛媛県、宮崎県及び大分県がそれぞれ5％となっており、この5県で全国の約5割を占めている。

図 26 切り枝の作付面積及び出荷量の推移

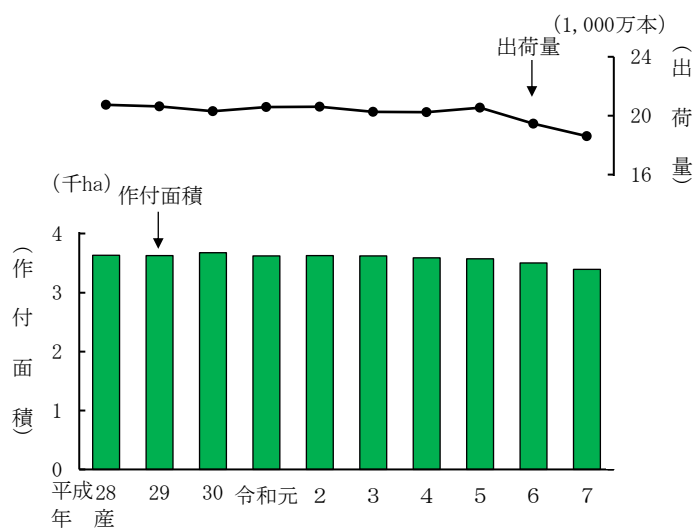
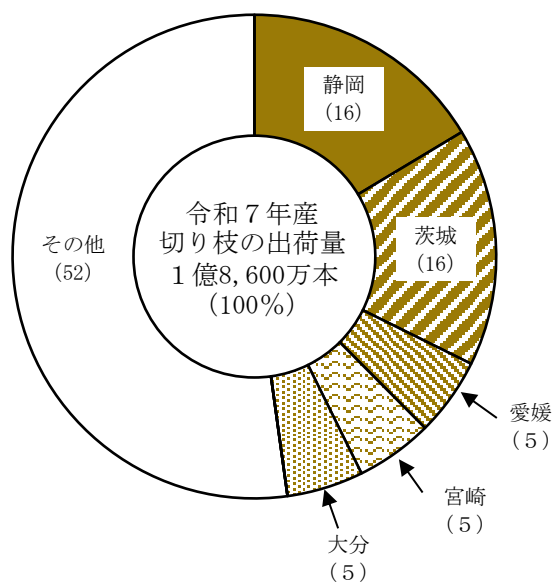


図 27 切り枝の都道府県別出荷量割合



(2) 球根類

収穫面積は211haで、前年産に比べ7 ha（3％）増加した。

出荷量は5,070万球で、前年産に比べ740万球（13％）減少した。これは、4月頃の日照不足や夏期の高温の影響により球根の肥大が停滞したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、鹿児島県が26％で最も高く、次いで新潟県が18％、富山県が16％、宮崎県が12％、愛知県が9％となっており、この5県で全国の約8割を占めている。

図 28 球根類の収穫面積及び出荷量の推移

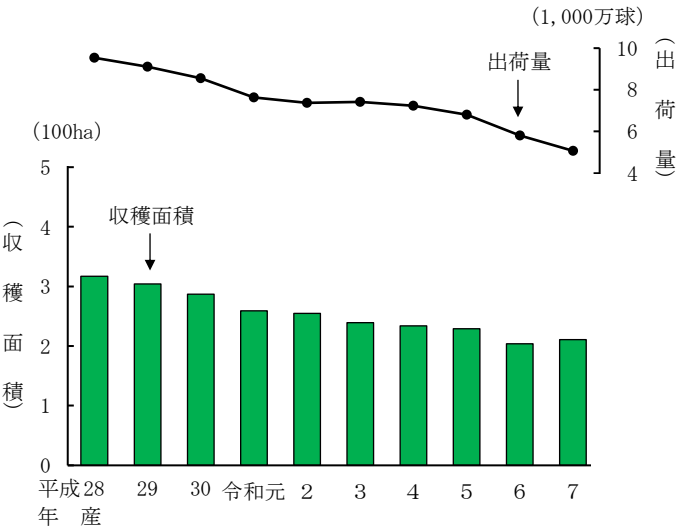


図 29 球根類の都道府県別出荷量割合

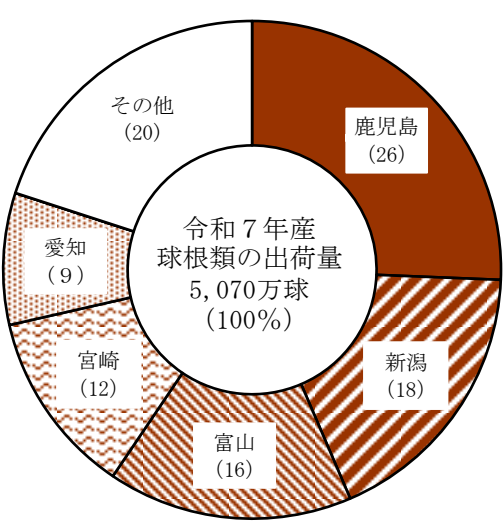


表 3 令和 7 年産球根類の収穫面積及び出荷量（全国）

類 別	収 穫 面 積	出 荷 量	対 前 年 産 比	
			収 穫 面 積	出 荷 量
	ha	万球	%	%
球 根 類	211	5,070	103	87

(3) 鉢ものの類

収穫面積は1,314haで、前年産に比べ50ha（4％）減少した。

出荷量は1億5,500万鉢で、前年産に比べ830万鉢（5％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が26％で最も高く、埼玉県が8％、静岡県及び岐阜県がそれぞれ7％、千葉県が5％となっており、この5県で全国の約5割を占めている。

品目別出荷量割合は、観葉植物が23％で最も高く、次いで花木類が17％、シクラメンが8％、洋ラン類が7％となっている。

図 30 鉢ものの類の収穫面積及び出荷量の推移
(1,000万鉢)

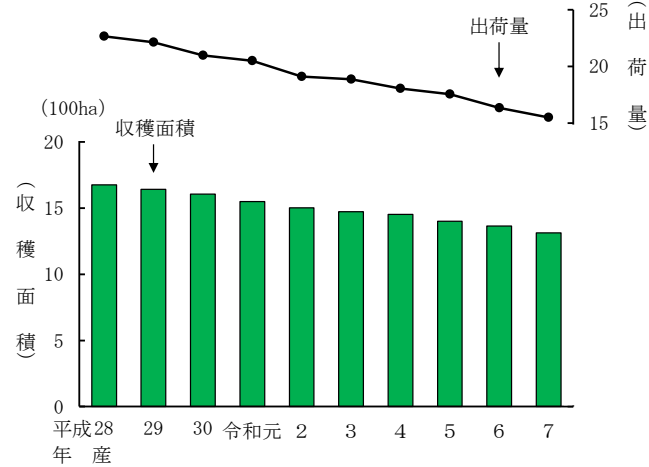


図 31 鉢ものの類の都道府県別出荷量割合

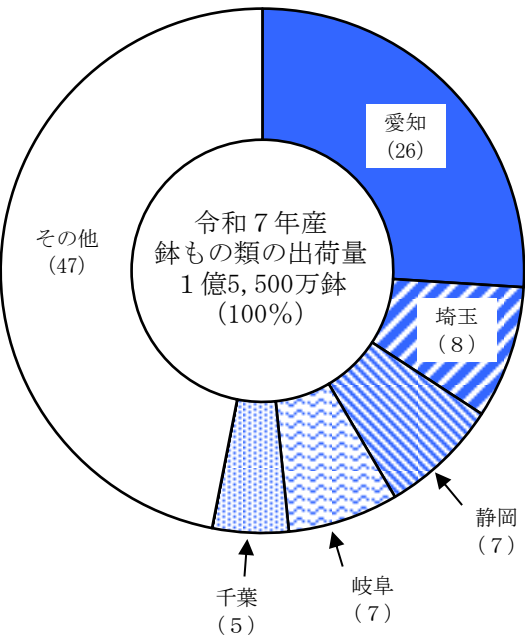


図 32 鉢ものの類の品目別出荷量割合

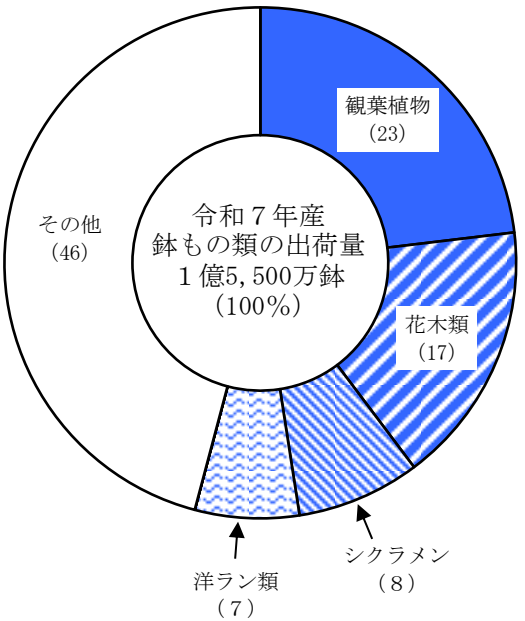


表 4 令和 7 年産鉢ものの類の収穫面積及び出荷量（全国）

類・品目	収 穫 面 積	出 荷 量	対 前 年 産 比	
			収 穫 面 積	出 荷 量
鉢 物 の 類	ha	万鉢	%	%
鉢 物 の 類	1,314	15,500	96	95
うちシクラメン	142	1,210	95	90
洋ラン類	146	1,020	94	94
観葉植物	241	3,580	99	94
花木類	261	2,580	97	95

注：鉢ものの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。

ア シクラメン

収穫面積は142haで、前年産に比べ8ha（5％）減少した。

出荷量は1,210万鉢で、前年産に比べ140万鉢（10％）減少した。これは、収穫面積の減少に加え、夏期の高温の影響により生育不良がみられたこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が12％で最も高く、次いで長野県が11％、群馬県及び千葉県がそれぞれ7％、福島県が6％となっている。

図 33 シクラメンの収穫面積及び出荷量の推移

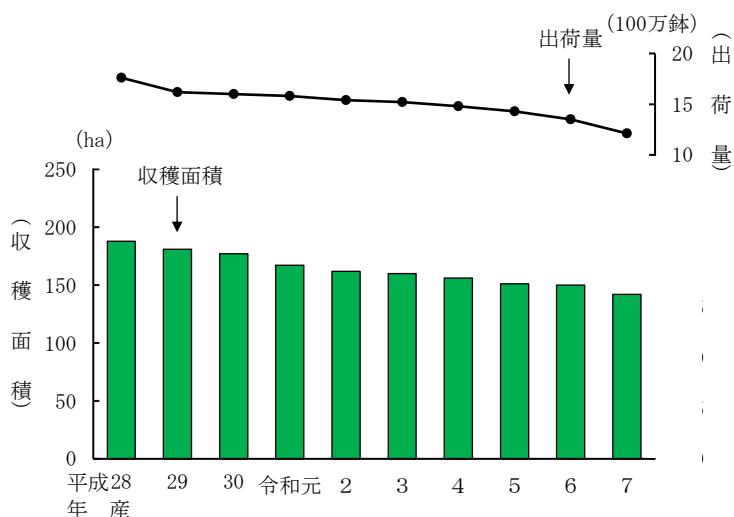
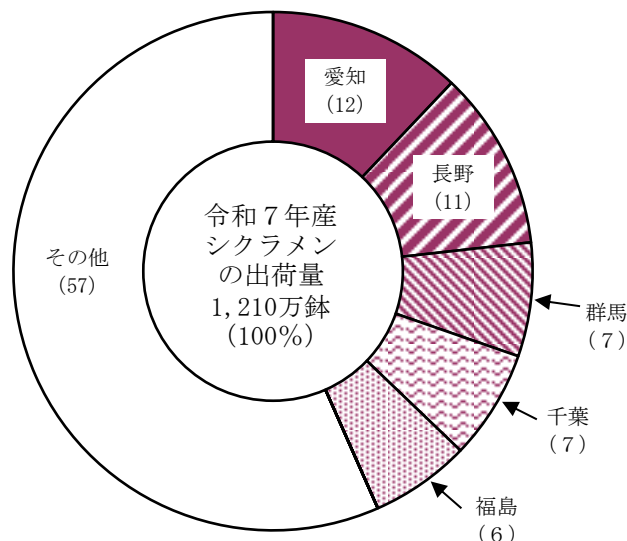


図 34 シクラメンの都道府県別出荷量割合



イ 洋ラン類

収穫面積は146haで、前年産に比べ10ha（6％）減少した。これは、生産者の高齢化等の労力事情により作付中止や規模縮小があったこと等による。

出荷量は1,020万鉢で、前年産に比べ70万鉢（6％）減少した。これは、収穫面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が25％で最も高く、次いで熊本県及び千葉県がそれぞれ10％、福岡県が8％、山梨県が5％となっており、この5県で全国の約6割を占めている。

図 35 洋ラン類の収穫面積及び出荷量の推移

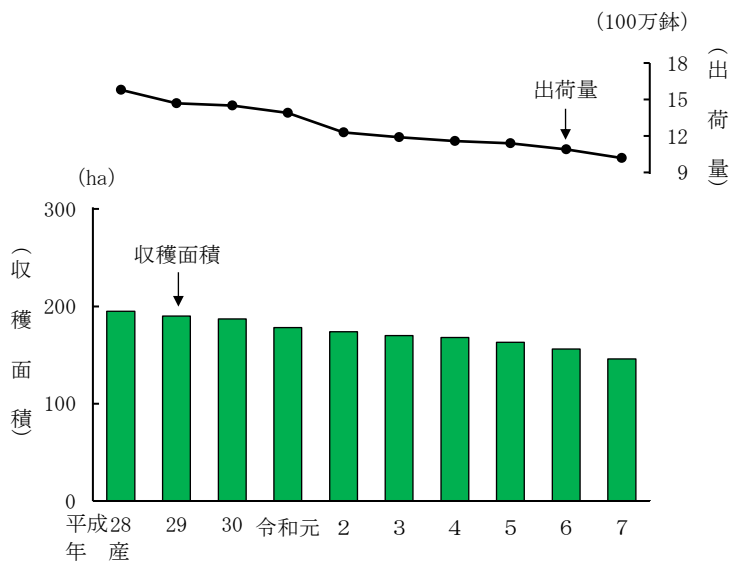
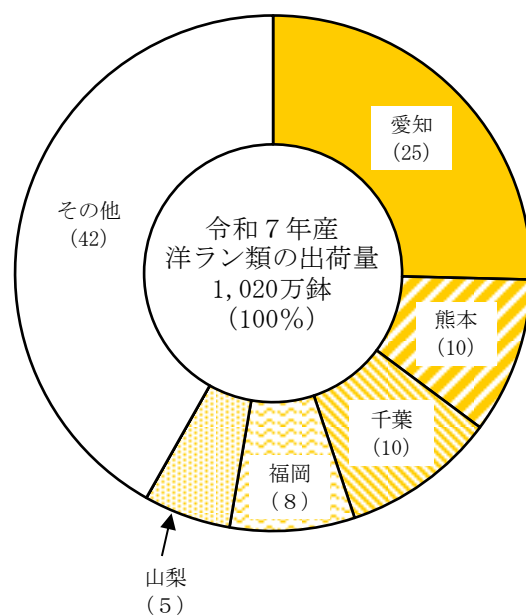


図 36 洋ラン類の都道府県別出荷量割合



ウ 観葉植物

収穫面積は241haで、前年産に比べ3ha（1％）減少した。

出荷量は3,580万鉢で、前年産に比べ210万鉢（6％）減少した。これは、収穫面積の減少に加え、夏期の高温の影響により生育不良がみられたこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が48％で最も高く、次いで静岡県が13％、三重県が9％、岐阜県及び福岡県がそれぞれ5％となっており、この5県で全国の8割を占めている。

図 37 観葉植物の収穫面積及び出荷量の推移

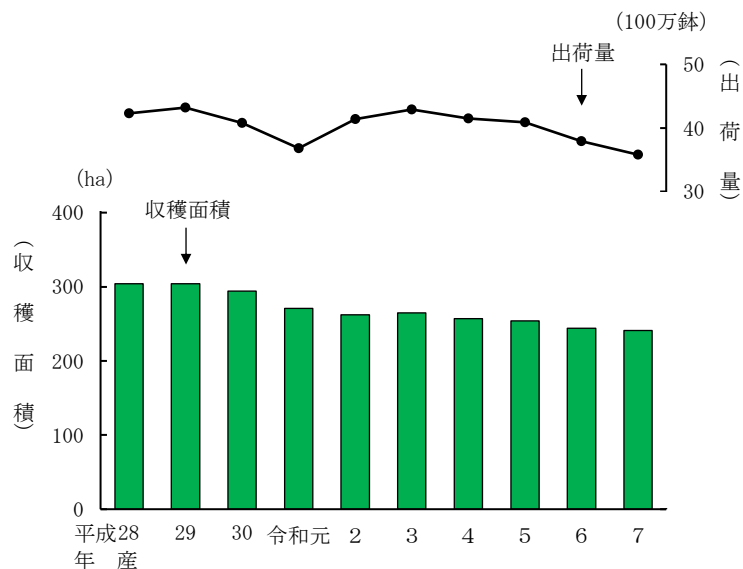
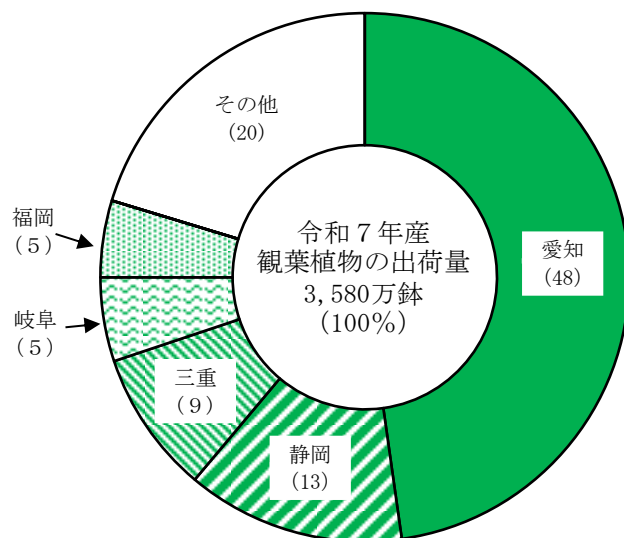


図 38 観葉植物の都道府県別出荷量割合



エ 花木類

収穫面積は261haで、前年産に比べ9ha（3％）減少した。

出荷量は2,580万鉢で、前年産に比べ140万鉢（5％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が21％で最も高く、次いで岐阜県が15％、新潟県が14％、埼玉県が8％、静岡県が6％となっており、この5県で全国の約6割を占めている。

図 39 花木類の収穫面積及び出荷量の推移

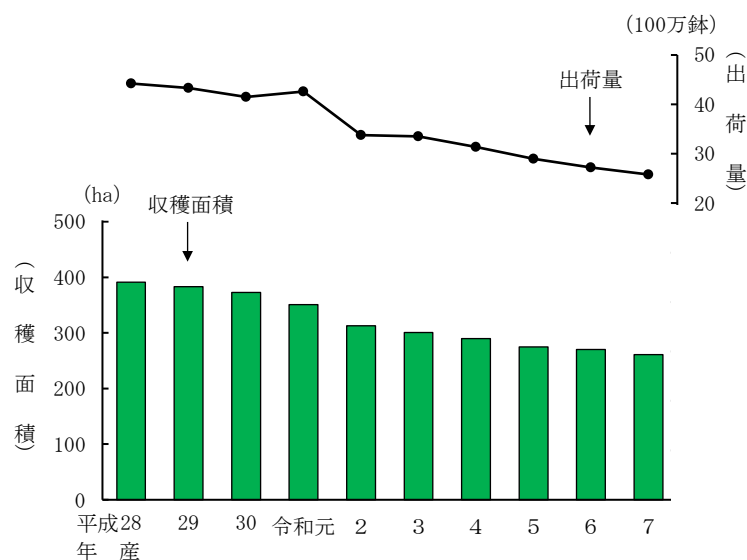
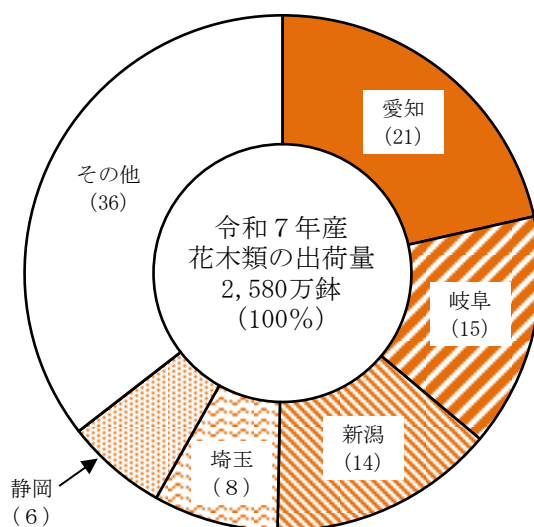


図 40 花木類の都道府県別出荷量割合



(4) 花壇用苗ものの類

作付面積は1,136haで、前年産に比べ57ha（5％）減少した。

出荷量は4億5,210万本で、前年産に比べ4,500万本（9％）減少した。これは、作付面積の減少に加え、夏期の高温の影響により生育不良がみられたこと等による。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が10％で最も高く、次いで愛知県が8％、千葉県が7％、茨城県及び奈良県がそれぞれ5％となっている。

図 41 花壇用苗ものの類の作付面積及び出荷量の推移

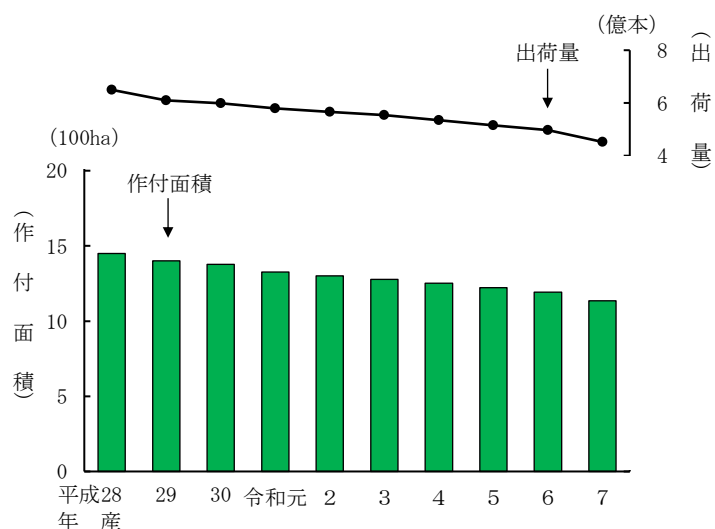
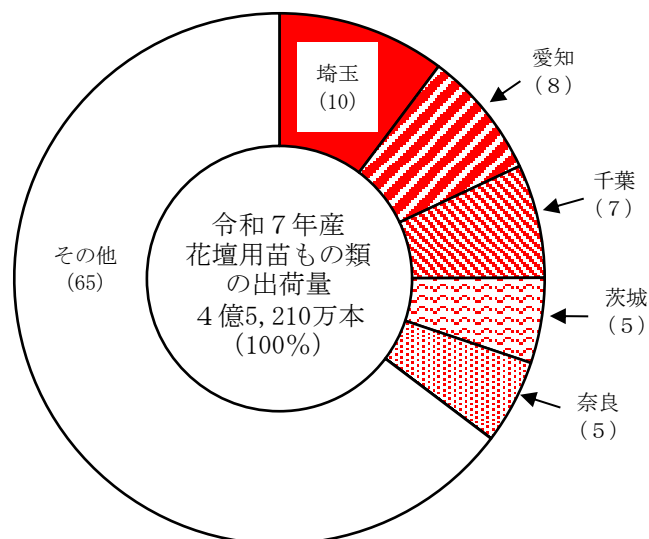


図 42 花壇用苗ものの類の都道府県別出荷量割合



このうち、パンジーの作付面積は229haで、前年産に比べ2ha（1％）増加した。

出荷量は9,470万本で、前年産に比べ220万本（2％）減少した。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が7％で最も高く、次いで愛知県及び茨城県がそれぞれ6％、神奈川県及び奈良県がそれぞれ5％となっている。

図 43 パンジーの作付面積及び出荷量の推移

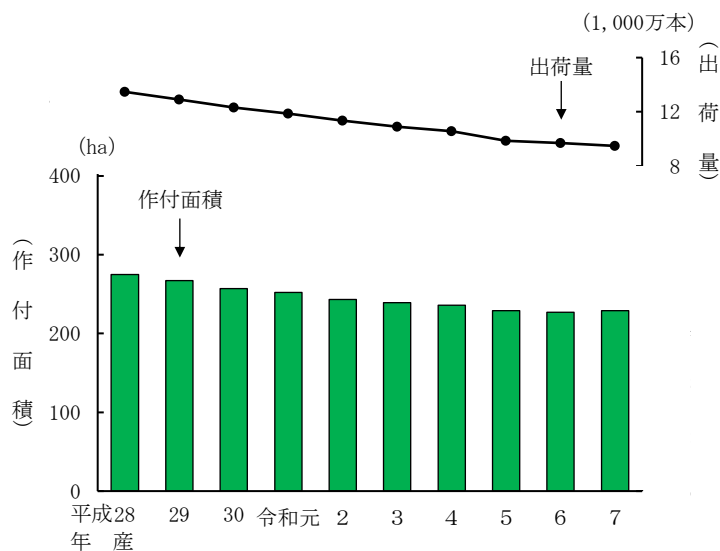


図 44 パンジーの都道府県別出荷量割合

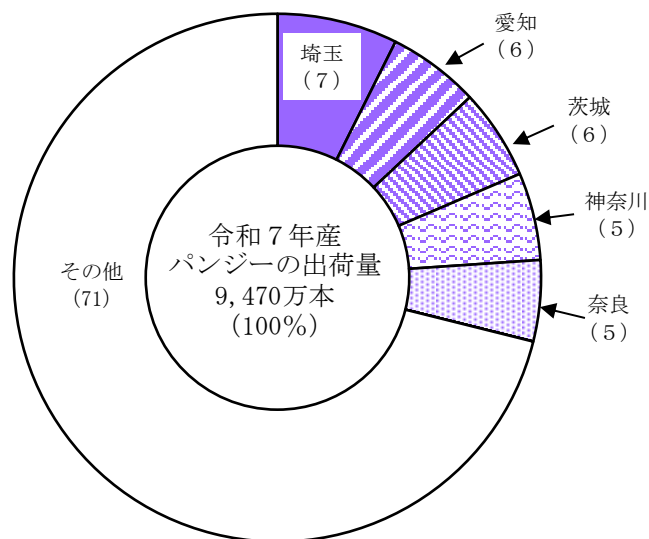


表5 令和7年産花壇用苗ものの類の作付面積及び出荷量（全国）

類・品目	作付面積	出荷量	対前年産比	
			作付面積	出荷量
	ha	万本	%	%
花壇用苗ものの類	1,136	45,210	95	91
うちパンジー	229	9,470	101	98

注：花壇用苗ものの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計である。